



平成 31 年 2 月 1 日  
地方独立行政法人  
東京都健康長寿医療センター

## 75 歳以上の約 8 割が 2 疾患以上、約 6 割が 3 疾患以上の慢性疾患を併存

### 発表内容の概要

東京都健康長寿医療センター研究所の石崎達郎研究部長、光武誠吾研究員らの研究グループは、東京都の後期高齢者約 131 万人分のレセプト（診療情報明細書）情報を分析し、後期高齢者の約 8 割が 2 疾患以上の慢性疾患を併存、約 6 割が 3 疾患以上の慢性疾患を併存していることを明らかにしました。この研究成果は、米国疾病対策予防センター（CDC）が出版している国際科学雑誌「Preventing Chronic Disease」に掲載されました（2019 年 1 月 31 日付）。

### 研究の背景と目的

複数の疾患が併存している状態は多病と呼ばれています。多病は、患者の医療ニーズ（受診や検査・治療）を複雑にするだけでなく、患者の心身機能や QOL の低下、ひいては医療費増大に重大な影響を及ぼしますが、わが国での多病の疫学研究は、まだ始まったばかりです。高齢化の進展によって多病を抱える者の増加が報告されており、高齢患者の診療では、併存疾患の考慮が欠かせません。しかし国内外を問わず、科学的根拠に基づいた診療ガイドラインの多くは、多病を抱える患者への考慮・対応が十分ではありません。多病を考慮した診療ガイドラインを開発するためには、多病の有病状況や頻度の高い併存疾患の組合せの把握が必要です。併存する 2 疾患の組合せに関する研究が海外で数多く報告されていますが、3 疾患の組合せに着目した研究は不足しています。そこで私たちは、東京都の 75 歳以上の後期高齢者約 131 万人分のレセプト情報を分析し、多病の実態や頻度の高い 3 疾患の組合せを把握するとともに、多病に関連する要因を分析しました。

### 研究の成果

東京都の後期高齢者の約 8 割は 2 疾患以上の慢性疾患が併存し、3 疾患以上の疾患を併存した割合は約 6 割でした。頻度の最も高い 3 疾患の組合せは、男性では高血圧・潰瘍性

疾患・虚血性心疾患（12.4%）、次いで高血圧・脂質異常症・潰瘍性疾患（11.0%）、女性では高血圧症・脂質異常症・潰瘍性疾患（12.8%）、次いで高血圧・潰瘍性疾患・脊椎／関節疾患（11.2%）でした。また、3疾患の組合せで頻度が上位15位までの中で、1年間の平均外来医療費が最も高かった組合せは、男性では高血圧・潰瘍性疾患・悪性新生物（827,644円、7位：7.6%）、次いで高血圧・潰瘍性疾患・脊椎／関節疾患（762,176円、10位：7.4%）、女性では高血圧・潰瘍性疾患・不眠症（682,811円、6位：8.0%）、次いで高血圧・潰瘍性疾患・脊椎／関節疾患（674,710円、2位：11.2%）でした。そして、多病を抱えやすい高齢者の特徴は、男性、85-89歳、医療費が1割負担、在宅医療を受けていること、外来受診施設数の多いこと、入院回数の多いことでした。

## 研究の意義

本研究から、東京都内の後期高齢者131万人の約8割は2疾患以上の慢性疾患を併存していることが明らかとなり、このことは、高齢患者を対象とする診療ガイドラインでは多病の考慮が必要であることを改めて示唆しています。本研究で示された高頻度の3疾患の組合せは、多病を考慮した診療ガイドラインを作成する際、優先的に考慮すべき併存疾患の組合せを選択する手掛かりとなります。また、外来受診施設数が多い者ほど多病の割合が多かったことは、多病を抱える者の診療内容・処方内容を施設を越えて共有できる医療システムの構築が必要であることを示唆しています。

## 掲載論文

国際科学雑誌「Preventing Chronic Disease」（掲載日：2019年1月31日）

Patterns of Co-Occurrence of Chronic Disease Among Older Adults in Tokyo, Japan.

邦訳：東京の高齢者における慢性疾患の併存パターン

DOI：<http://dx.doi.org/10.5888/pcd16.180170>

URL：[https://www.cdc.gov/pcd/issues/2019/18\\_0170.htm](https://www.cdc.gov/pcd/issues/2019/18_0170.htm)

（問い合わせ先）

東京都健康長寿医療センター研究所

福祉と生活ケア研究チーム（医療・介護システム研究）

石崎達郎、光武誠吾 電話：03-3964-3241(内線 4226)